

---

## スイーツセミナー 1

5月16日(土) 15:05～15:55

第3会場 福岡国際会議場 2F (202)

# 女性の生涯を通した健康と活躍のために

～性差医療・女性専門外来の経験から～

講演者：片井 みゆき(東京女子医科大学東医療センター 性差医療部 准教授)

司会：三浦 ひとみ(東京女子医科大学病院 中央検査部 技師長)

共催：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

---

近年、女性の高学歴化や社会進出は目覚ましいものがあり、各分野において活躍する女性が増えています。その一方で、ストレスや過労による月経不順や無月経を来す女性、仕事に追われ気づいたら妊娠適齢期を過ぎ不妊に悩む女性も増えています。また、仕事と家庭を両立されている女性も、両立の困難さや女性のロールモデルが身近に居ない悩みなども多く、心身のストレスを抱えている状態です。私は内分泌内科医という立場から性差医学に基づく女性専門外来を担当しておりますが、このような不調を来した女性が数多く受診されています。

私たち医療者は人々の健康を守るため日々忙しく働いておりますが、その一方で生涯にわたるキャリア継続のためには自身の健康も維持していく必要があります。女性が生涯を通し健康で生き生きと活躍するためには、どうしたらよいのでしょうか？まずは女性の身体が生涯を通してどう変化するのかを皆が知ること、次に、それに合わせた対応策をまずは女性自身が、そして職場や社会、医療のレベルでも行うことではないかと思います。

そこで今回、女性と男性の身体はどう異なるのか、

女性の身体はライフステージにおいてどう変化するのか、それにどう対応していくべきかについて「性差医学・医療」の知見を紹介させて頂きたいと思います。性差医学・医療とは新しい概念で、男女共通の臓器における疾患でも病態や症状に性差があることが近年認識されるにつれて発展して来ました。日本でも1990年代後半から性差医学の概念が導入され、女性における性差医療は「女性専門外来」として全国に広がり様々な専門分野の医師が連携し診療に取り組んでいます。また、性差を考慮した脂質基準値の提案、循環器疾患での性差の研究やガイドライン制定も進んでいます。女性では、月経周期やライフステージに伴う女性ホルモン分泌の劇的な変化のため、月経前の変調や更年期症状、閉経以降には抑うつ、骨粗鬆症、脂質代謝異常症、高血圧、動脈硬化性疾患の増加がみられます。また、更年期の不調はすべて更年期症状(障害)とは限らず、甲状腺疾患など症状が似た他の疾患の可能性がないかの除外診断も大切です。

医療者として女性として生き生きと輝いて、生涯健康に過ごせるよう、共に考え、取り組んで行きましょう。